

令和5年度第2回北上市総合教育会議

- 1 日 時 令和5年10月20日（金）午前10時
- 2 場 所 北上市役所本庁舎 5階第1会議室
- 3 協 議 持続可能なまちづくり推進プロジェクトの中間評価について

4 会議に出席した構成員

市長	八重樫 浩文
副市長	及川 義明
教育長	平野 憲
教育長職務代理者	佐藤 和美
教育委員	高橋 隆紀
教育委員	照井 睦子
教育委員	小原 紀実

5 説明のため出席した職員

企画部	企画部長	斎藤 昌彦
	政策企画課長	金田 明
財務部	財務部長	八重樫 義正
	財政課長	皆川 礼一郎
まちづくり部	まちづくり部長	高橋 景子
	生涯学習文化課長	児玉 康宏
	スポーツ推進課長	小田嶋 和広
健康こども部	健康こども部長	高橋 昌弘
	子育て支援課長	久保田 達夫
教育部	学校教育課長	平賀 英和
	文化財課長	佐藤 康浩
	学校給食センター所長	菊池 恵理子
	中央図書館長	菅野 勝文
	博物館館長	渋谷 洋祐
	鬼の館館長	小田島 孝

6 事務局

教育部	教育部長	澤藤 樹史
-----	------	-------

総務課長
総務課長補佐

石川 貴洋
高橋 顕祐

7 傍聴者
1名

8 会議の概要

持続可能なまちづくり推進プロジェクトの中間評価について、政策企画課長からプロジェクトの概要を、各担当部長からプロジェクトの中間評価をそれぞれ説明した後、中間評価の内容や検討すべきプロジェクト事業等を中心に意見交換した。

9 会議録

次のとおり

(開会 午前10時)

(1 開会)

教育部長

(2 市長あいさつ)

市長

今年度の総合教育会議では、第1回目として教育大綱を協議いただいた。

今回は、総合計画が現計画として3年目を迎える中で、様々な社会情勢の変化等もあると捉えており、教育委員の方々からの意見を踏まえて検討を進めたいと考えている。

本日は、活発な協議をよろしくお願いしたい。

(2 教育長あいさつ)

教育長

今回の会議では、「持続可能なまちづくり推進プロジェクトの中間評価」として3プロジェクトについて意見交換いただく内容となっている。

その中でもグローバルな人材育成に関しては、ALTを9名市内各小中学校に配置しているが、英検受験料の補助により受験者数が年々増加している影響もあり、合格者率が目標値を下回っている。一方で、県の英語弁論大会で上位入賞しており、小中学生の英語力自体は、全体的に伸びていると捉えている。

本日は、有意義な意見交換をお願いしたい。

(3 協議 持続可能なまちづくり推進プロジェクトの中間評価について)

政策企画課長

別紙持続可能なまちづくり推進プロジェクトの概要資料に基づき、プロジェクトの概要を説明

健康こども部長

別紙持続可能なまちづくり推進プロジェクト「子育て寄り添いプロジェクト」の中間評価資料に基づき、主に一時的な遅れと評価されている項目について説明

(以下、説明に係る意見交換)

教育長

指標⑦「市民意識調査における子育て環境の充実度」の調査結果は、令和5年度分となるものか。

政策企画課長 令和5年度の速報値となる。

佐藤 和美 委員 「7 子育て世帯の経済的負担の軽減」に係り、子育て世代の経済的負担の軽減を目的として、18歳までの医療費助成が実施されている。多くの市民が恩恵を受けることができている、市民も子育てに市が力を入れていると実感しやすい取り組みが進められていると捉えている。

この取り組みから、次年度の市民満足度調査では、指標⑦「市民意識調査における子育て環境の充実度」の評価が上がるのではないかとと思われる。また、指標③「産後4か月頃における当市で今後も子育てをしていきたいと思う人の割合」も評価が上がると思われる。

以前から、この取り組みは実現していただければと思っていた事項であり、本当に良い取り組みであると思っている。

健康こども部長 この取り組みが来年度の指標に現れてくると期待したいと思っている。一方で、子育てをしていない家庭は、市の子育て支援対策を実感することが難しいため、市として取り組みの内容をアピールする必要性を感じている。

小原 紀実 委員 「3 産前・産後サポート事業の充実」及び「4 児童虐待の発生防止、早期発見・対応」の評価が高い一方で、指標⑦「市民意識調査における子育て環境の充実度」が目標値を下回っており、同調査を通じて、40～50代の満足度が低い原因を把握してはいかかがか。

健康こども部長 直接、子育て支援の恩恵を受けない子育てを終えた世代に対しては、市として子育て支援を充実させていることを周知、アピールすることが重要と捉えている。

教育部長 別紙持続可能なまちづくり推進プロジェクト「学びの改革プロジェクト」の中間評価資料に基づき、主に一時的な遅れと評価されている項目について説明

照井 睦子 委員 まずは、今年度、市独自のスクール・ソーシャル・ワーカーを配置いただき、教育相談等の面で充実が図られていると感じ

ている。

一方で、配慮の必要な子ども達を支援する学校支援員に加えて、校長会代表者との意見交換会では、各学校に不登校児童生徒に対する更なる支援員の配置が必要との意見が多かった。

不登校児童生徒に対する支援員配置により、早期発見にもつながり、子ども達の社会的な自立に向けた支援が必要ではあるが、その受け皿が少ない状況でもあり、更なる配置を検討いただきたい。

教育部長

教職員だけでは対応しきれない事案がかなり多くなっていると捉えており、個別指導支援員による対応については、今後の検討事項と考えている。

佐藤 和美 委員

スクール・カウンセラーを市独自で配置することを検討いただきたい。県のスクール・カウンセラーは9名配置されているが、学校側としては必要なタイミングで利用できないとの意見が出されていた。

また、不登校や発達障害に対応できる児童精神科医や思春期専門医が北上には少ないと感じている。他市の病院では、数箇月先まで予約が取れない状況もあると聞いており、早期発見した直後に対応できるカウンセラーを学校や市が配置することが重要になると感じている。

教育部長

スクール・カウンセラーの現状の体制のままで良いかどうかは、検証する必要があると捉えている。

医療機関の診断につなげるためにも、連携の手法を検証したいと考えており、更なる体制強化に努めたい。

小原 紀実 委員

「2 グローバルな人材の育成」に係り、受験者が増加しているとのことであったが、小学校のイングリッシュワールドの拡充により、長期的なグローバルな人材の育成を進める必要があると考えている。

また、「4 地域とともにある学校づくり」を進める中で「3 不登校児童生徒への対応」につなげることも1つの手法では無いかと考えている。

他市の事例としては、一戸町では御所野遺跡を活用した生涯

教育を進めており、その取り組みを学校教育にも生かしている。平泉町では、世界遺跡に加えて郷土芸能をコミュニティ・スクールとして教育活動に取り入れている状況となっていた。このような文化芸術活動や文化遺産に不登校児童生徒に方々に興味を持って貰い、自分自身が変わるきっかけになれば良いのではないかと考えている。

教育部長

コミュニティ・スクールの活動の中には、地域と学校が連携して地域の歴史を学ぶ取り組み等を進めている活動もある。

これらの取り組みを不登校対策に活かすことが出来るかはこれからの検討になるかとは思われるが、地域に対する学習意欲を高めることにはつなげられると思われ、引き続き、コミュニティ・スクールの取り組みを支援して行きたい。

まちづくり部長

別紙持続可能なまちづくり推進プロジェクト「地域をつくる文化芸術・スポーツプロジェクト」の中間評価資料に基づき、主に一時的な遅れと評価されている項目について説明

小原 紀実 委員

「1 多様な社会教育への対応」に係り、これまでも市民大学は様々な工夫をなされていると思われるが、20～40代の若い世代が興味を持てる内容を検討いただきたい。

「3 文化芸術を活用したまちづくりの推進」に係り、子育て世代は時間的余裕が無い部分もあるが、子どもと一緒に参加できるイベントを検討する必要がある、特にも「6 民俗芸能の育成と伝承」と関連付けて民俗芸能の伝承等にもつなげることもできるのではないかと考えている。コミュニティ・スクール等を活用した取り組みを更に拡充していただきたい。

まちづくり部長

市民大学の実行委員に若い世代の方に入って検討を進めており、引き続き、意見を踏まえた検討を進めたい。

民俗芸能に関しては、北上市民俗芸能推進事業として民俗芸能協会と取り組みを進めており、次年度は、更に市民向けのPRや芸能団体の出演機会を確保する取り組み等を進めたい。

佐藤 和美 委員

「7 ライフステージに応じて楽しむ生涯スポーツの推進」に係り、週1回、20%以上増加した結果となっている。実際に

総合運動公園の散策者も増えており、とても良い状況と捉えている。一方で、冬期間の運動は難しくなることから、総合運動公園内の除雪による散策ルートの確保も1つの手法かと思われる。

スポーツ推進課長 現状では、冬期間の散策路整備を目的とした除雪は行っていないが、検討を進めたいと考えている。

まちづくり部長 体育館内でもランニングコースは整備されており、こちらの活用も周知を図りたい。

佐藤 和美 委員 「2 学びの改革プロジェクト」における指標④及び⑤に係り、「不登校児童の割合」を「年間90日以上」として整理しているが、「年間30日」ではなかったか。

学校教育課長 誤記であり、「年間30日以上」に修正させていただく。

照井 睦子 委員 5歳児健診に係り、当市の検討状況を説明いただきたい。

健康こども部長 当市では5歳児健診は実施しておらず、3歳児健診の実施後、入学時検診までの間に健診のタイミングが無い状況ではある。

発達障害を早期に発見し、その対応を早期から始めることにより、小学校入学時におけるハードルや教職員や保護者の負担を軽減しようとする国の方針かと捉えている。

当市としては、3歳児健診を集団検診としており、他市で60%程度の健診率が当市では90%を超えている状況である。この3歳児健診で、ほとんどの発達障がい児を認知することが出来ていることから、現段階では、5歳児健診の実施は検討していない。

小原 紀実 委員 平泉では、コミュニティ・スクールや放課後教室で郷土芸能体験講座等を実施しているが、当市では実施しているか。

学校教育課長 運動会等のイベントに向けた取り組みや総合的な学習では実施されているが、放課後等には行われていないと思われる。

副市長

英語検定の受験者数が増加しているが、学校間でばらつきがあると聞いており、全中学校での取り組みを進めて貰いたい。

また、策定した第3次北上市教育大綱にも、基本方針「持続可能な社会の創り手の育成」として、「職業観を確立し、職業を自分で選択するためのキャリア教育」を位置付けている。一方で、黒沢尻工業高校の入学生から話を聞くと職業観を持っていない生徒が多い状況である。鬼っジョブ等の民間の取り組み等の活用や、中学校と高校の連携等による早期からの児童生徒の職業観の醸成を図って貰いたい。

学校教育課長

実際、各校の取り組みには温度差がある状況となっており、各校の状況を情報共有することにより、市内全校での英語検討受講率を上げていきたい。

キャリア教育としては、コロナ禍において控えられてきた職場体験が今年度から始まっている。また、北上川ものづくりネットワーク等から、小中学生の社会科見学の訪問先に黒沢尻工業高校を入れる提案もいただいております、校長会を通じて各校へ情報提供を進めたい。

教育長

キャリア教育に係り、中学3年生を対象とした高校説明会が毎年7月に開催されているが、全校に参加する機会を確保するため、市内各高校には開催日が重ならない調整をしている。

高校説明会を通じて、職業観の育成につなげられればと考えている。

副市長

工業系のイベントに参加している小学生は、興味津々で参加していたが、中学生になった際に、どの程度の職業観を持つことにつながっているのかが懸念される。

市長

佐藤組と南小学校の取り組みは、学校と学区内の企業との連携が図れた非常に良い取り組みであると捉えている。

教育長

不登校対策については、不登校支援員の増員やスクール・カウンセラーの市独自の配置等を検討したい。不登校は、学校に行かない形態も認められており、登校刺激を与えない診断が出

されることも多いことから、不登校児童生徒数が増えている状況であり、学校で対応できる支援を進めて行きたいと考えている。

コミュニティ・スクールの活用については、東桜小学校が開校したことから、市内全域で今年度から活動が始まることとなった。課題等を整理し、今後の取り組みを進めて行きたい。

市民大学については、内容や開催時期を含めて、引き続き、検討したい。

キャリア教育についても、各校でバラつきがある状況にはなっており、子ども達に何が大切になるか、校長会議等を通じて、情報を共有しながら、市教育委員会として統一的な見解で進める必要があると考えている。

本日いただいた様々ご意見については、今後検討させていただきたい。

(4 その他)

政策企画課長

第3次北上市教育大綱については、第1回の総合教育会議の協議を踏まえ、内容を変更しない形で8月7日に庁議決定している。市議会には、8月31日の議会全員協議会で内容を説明しており、市ホームページ等でも公開している。

教育部長

(5 閉会)

(閉会 午前11時15分)

令和5年10月20日

議録作成者 北上市長 八重樫 浩文